



令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立丹波支援学校 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	府立丹波支援学校 高等部 69名 京都先端科学大学健康医療学部2年生 40名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な探求の時間）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者への理解を深め、共生社会の形成に資する。 ・スポーツを通して自己肯定感を高めるとともに、他者を尊重し共同する態度を養う。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年10月6日(水)京都先端科学大学健康医療学部での講義 高等部総括主事が京都先端科学大学にて交流する大学生40名に特別支援教育とは、丹波支援学校の概要、保健体育科の授業内容及び授業づくりについて講義を行った。 あわせて交流する生徒の概要についての説明を行い、大学生に具体的に特別支援学校の生徒の様子を理解する機会とした ・令和3年10月20日(水)オンラインによる大学生との交流 本校高等部69名の生徒を4つのグループに分け、大学生とオンラインでつなぎ、それぞれ自己紹介の後ダンスやストレッチを行い、大学生がそれぞれ体の動かし方等を解説しもう一度みんなでダンス等を実施した。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・京都先端科学大学の大学生が特別支援教育についての講義を聴いたり、交流したりすることで障害理解教育につながった。 ・京都先端科学大学健康医療学部の大学生より具体的に体の動かし方や上手なダンスを学ぶことで、大学生のようにやってみたいという学習への意欲が高まった。 ・画面を通してではあるが一緒に体を動かしてダンスをすることで、自分以外の他者にあわせようとする協調性を育むことができた。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 直接交流が難しいため事前に京都先端科学大学で講義を行い、保健体育科で取り組んでいる授業内容や、生徒の様子を伝えることで、交流学习当日のイメージを持ちやすいように工夫した。 • 交流学习当日はコロナウイルス感染症拡大防止のため、直接の交流は行わず、オンラインで交流を行った。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 大学生と事前打ち合わせをしておく、オンラインでの不具合があってももう少し対応できたのかもしれない。 • 打合せ及び当日の交流時間の確保が難しい。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 京都先端科学大学との交流は次年度以降も継続して実施をしていく予定である。 • コロナウイルス感染症対策を施し、直接交流の方法も検討していきたい。 • 地域との取組の中で、障害者スポーツの交流を実施する。